

2017 乳相アンケート調査②（ろう重複児）から

2017.10.10 木島照夫

はじめに

関東地方の二つの聾学校乳幼児相談に通う1歳以上3歳までの乳幼児の保護者にアンケート調査を行い、33名の回答を得たそのうち、重複障害のある9名（1歳5か月～3歳6か月、平均2歳4か月、全回収数の27%）について、調査結果をまとめた。

回答数の内訳

表-1

学校名	40～70dB 未満 (軽・中度群)	70～90dB 未満 (高度群)	90 dB 以上～ (重度群)	計
A ろう学校	1人	2人		3人
B ろう学校	1人	2人	3人	6人
計	2人 (22%)	4人 (44%)	3人 (33%)	9人 (100%)

重複した障害は、聴覚障害+知的障害は全員。そのほかの主な障害はダウン症 2名、脳性まひ 2名、盲難聴 1名である。

1. 前言語期「指さし」行動について

①相手の指さした方を見る、②自分から指さしをする、の両方とも見られた子は3名(2:0、2:0、3:1)。片方のみが見られた子は3名(1:10、1:10、3:6)の計6名で、3分の2の子どもに指さし行動がみられた。また、指差しがまだ出ていない子は2名(1:5 盲難聴, 3:3 重度知的障害)であり、これらの子は喃語、初語ともまだである。ほかに不明が2名あった。

指さし行動のみられた子どもの数

表-2

	40～70dB 未満 (軽・中度群)	70～90dB 未満 (高度群)	90 dB 以上～ (重度群)	計
①のみあり		2人	1人	3人(22%)
②のみあり			1人	1人(11%)
両方あり		1人	1人	2人(33%)
まだ・不明	2人	1人		2人(22%)

【例】「電車来るよ～というところらを見る」(1:8)
「緊張が抜けた時、自分から指さした」(脳性まひ)

2. 喃語の発生について

手指喃語らしき動きがはっきりと観察された子どもはいなかったが、喃語を保護者がどのようにとらえて回答しているのかが明確ではないため、アンケートから実態をとらえることは困難なように思える。一方、音声喃語のほうはわかりやすい。これが観察されたのは2人(1:9、70dB ダウン症児「パパパパ・・・」、他の1名は90dB、記述なし)であった。

3. 初語の発生について

(1) 初語の出現時期

手話初語は5人(全体の56%)にみられた。うち4人の平均出現月数は0:11、1:3、1:6、1:9で平均16.3か月。また、音声初語は1人だけであった(85dB、出現時期不明)。

初語の出現人数

表-3

	40～70dB 未満 (軽・中度群)	70～90dB 未満 (高度群)	90dB 以上～ (重度群)	計
手話初語のみ		2人	2人	4人
音声初語のみ				なし
両方あり		1人		1人
計	なし	3人	2人	5人

(*上表「なし」は「まだ出ていない」を含む)

(2) 初語の内容と手型

それぞれの子どもの初語内容は下記の通りである。要求表現より叙述表現のほうが多い。また、手型は「グー」と「パー」が多い。

◎叙述表現

a.感情・挨拶「おいしい」(1名)、「ばいばい」(1名)

b.指示・注視「でんき」(2名)

◎要求表現

「みず」(1名)

4. 二語文の生成、指文字・文字の獲得

これらの項目についてはいずれも回答なしまたは「まだ」の回答であった。

5. まとめ

表-4

事例	軽・中度群 (70dB 未満)		高度群 (90dB 未満)				重度群 (90dB 以上)		
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
年齢	1:7	3:3	1:5	1:10	2:2	2:2	1:10	3:1	3:6
指さし				○	○	◎	○	◎	○
喃語				(音声)					
初語 (手話)	(パバ) 1:3	(*重度 障害)	(*盲難 聴)	「水」 1:6	(*まひ あり)	「電気」	「電気」 1:9	「おい しい」 0:11	(*まひ あり)
(音声)						パパ			

*指さし ◎..両方出現、○..どちらか出現

①知的障害を伴う9名(1～3歳児)の初期言語発達についての調査結果を上表にまとめた。初語(有意味語)が出ている幼児は5名でいずれも1歳代で手話の初語が出現していた。知的障害が中程度であり、上肢に障害を伴わなければ、家庭の中での手話環境が保障されることで、手話を早期に獲得できる可能性は高いと考えられる。

②手話初語がまだ出現していない4名についてみると、そのうち3名は脳性まひ等による発信の困難さがあるが2名は理解中心に手話を獲得できる可能性はある。例えば、E児は手話理解語彙はあり、表出は問いに対してYes-Noを眉間を動かすことで発信している。このような、Yes-No疑問文の眉上げをその子どもなりの表出方法として工夫することも大切であろう。また、1名は重度の知的障害のほかに盲難聴があり、まだ概念自体の獲得に難しさを抱えているが、こうした子どもの理解・表現方法の習得の工夫も重要である。

③初語を獲得している子は、どの子も前後して指さしによる親との三項関係・社会的相互関係の成立を経て言語獲得に至っている。このことから発達早期における共感的な母子関係の成立が前提としてあり、その上にわかりあえる手段として手話が機能していると考えられる。